

一、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(七〇点)

一九七〇年代に入って、環境と調和する社会の創造という課題が提起されてきたとき、思想的には、私たちは ⁱはげつこう容易にこの課題を受けとめていたような気がする。現実 ^aにそれを実現させるうえで ⁱⁱのむずかしさはあっても、自然と人間が ^aキョウセイしうる社会づくりの重要性は、議論の余地 ⁱⁱのないことのように思われた。それに自然を破壊することによって発展した近代的な経済社会への批判は、すでに一〇〇年以上も前に J・S・ミル ¹がおこなっていたことでもあった。

*

① ところが環境についての研究がすすんでくると、私たちは次第にこのことのなかに難解な思想的課題がひそんでいたことに気づかざるをえなかったのである。

たとえば近代社会の基本的な考え方のひとつに平等の思想がある。誰もが同じ権利を有することができるというこの考え方は、民族や出身階級や職業、貧富の違いなどによる差別を消し去る、近代が生み出した偉大な思想といってもよかった。

この平等主義の立場にたつかぎり、すべての人々は平等に自然環境 ^bを享受 ^bできなければならぬ。ところがそれは二つの理由でむずかしいのである。第一に自然自体がどこの地域でも平等にはつくられていない ⁱⁱⁱし、第二に自然を平等に享受しようとする ⁱⁱと、より大きな自然破壊をとま ⁱⁱつてしまうときのあることがわかってきた。

*

自然は平等にはつくられていない。たとえば日本では田畑を放置すれば、たちまち ^{くさむら}叢 ^{くさむら}になり雑木林に戻って ^Aいってしまうけれど、それは日本の自然の生命力が高いからである。降雨量の少ない地域では、たとえばヨーロッパ ^Aの地中海性気候 ^cの地域でさえ、放置された田畑は ^cサバク化 ^cしてしまう。腐葉土層の薄いドイツのよう

な地域では、土壌の力が弱いために、酸性雨がたちまち森を枯らしてしまう。熱帯雨林では伐採跡の表土を雨期の雨が押し流してしまうし、土壌もその繁茂する森の姿からは想像できないほどに痩せている。

とすると自然環境と調和した社会づくりとは、その地域の自然条件に合わせた社会づくりのことなのだから、それは自然の不平等を甘受する社会の創造ということになる。実際、降雨量の少ない地域や熱帯雨林で日本と同じ感覚で木を切れば、自然は回復不能なほどに荒廃してしまうのである。

ところが③近代な経済の理念はそういったものではなかった。自然の相違を無視しうる経済の樹立、その意味で平等な経済の樹立こそ近代な経済思想の理念であった。ビルの乱立する都市、道を走る自動車、家庭のなかの電機製品、そのキノにある鉄鋼や化学工業……、近代な経済は、理念としては、人間が自然の制約から自由になり、平等にこの経済を享受しうることを提起していたのである。

もちろん現実には経済発展の不均等があり、それが南北問題などを生み出してしまうのだけれど、それでも経済を発展させれば平等になりうるという理念があったからこそ、近代経済は全世界に受け入れられたといってもよかった。ところが④環境の思想は、この平等の理念の批判を必要とする。

それにすべての人間が平等な権利を有することを認めると、自然破壊をソクシンしてしまうこともわかってきた。それを水害という面から説いた研究としては、大熊孝の『洪水とチスイの河川史』(一九八八年)があった。「水害の制圧から受容へ」という副題を持つ河川工学者の書いたこの本は、すべての水害をなくそうとすると河川の大改造をすすめる他なく、それはたまに起こる水害の被害よりもっと大きな自然破壊による被害を招いてしまうことを提起していた。

軽度の水害を受け入れる社会をつくったほうがよいというのが大熊の考え方であったが、ここで問題になるのも平等という考えである。

なぜなら水害は、

I

から。とすると水害を受容す

る社会づくりとは、水害の不平等を甘受する智慧に富んだ社会づくりということになるのであろうか。

*

自然は多様である。そしてそうであるかぎり、自然環境と調和する社会の創造とは、すべての人々が自然に対する権利を平等に有する社会のことではなく、IIにならざるをえない。だがそれは多様という言葉のもとで、自然と人間の関係の不平等を認めることになって、どうしても平等主義という近代の偉大な思想に反する。

ここでも現代の思想は、^{vi}近代的な発想の全面的な読みなおしが必要になった。

(内山節「自然の不平等」)

【語注】

注1 J・S・ミル：イギリスの社会思想・論理学者

問一 〓線部 a s h のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みを平仮名で記しなさい。

問二 〓線部 i s vi の品詞を後から選び、記号で答えなさい。

ア 動詞 イ 形容詞 ウ 形容動詞 エ 副詞 オ 連体詞
カ 助詞 キ 助動詞 ク 感動詞 ケ 接続詞 コ 名詞

問三 ……線部 A、B の語句の意味・内容として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 地中海性気候

ア 冬は温暖で雨が多く、夏は高温で乾燥する温帯気候。
イ 一年中適度な降雨・降雪があり、夏は比較的温暖な冷帯気候。
ウ 降水量が極めて少なく、オアシス以外に植物が見られない乾燥気候。
エ 寒冷で樹木の生長には適さないが、氷雪におおわれない季節をもつ寒帯気候。

B 南北問題

ア 先進国と発展途上国の経済格差をめぐる諸問題。
イ 経済のグローバル化による、地域産業の空洞化問題。
ウ 社会主義諸国と資本主義諸国の政治的・軍事的な対立。
エ 中心となる地域に政治・経済等の諸機能が集中する問題。

問四 〓線部 ① 「このこと」の指す内容を本文中から十五字以内で抜き出しなさい。

問五 〓線部 ② 「自然を平等に享受しようとする」と、より大きな自然破壊をとまってしまう」とは、具体的にどうなってしまうことか、文章中にある例を用いて説明しなさい。

問六 —— 線部③「近代的な経済の理念」をくわしく言い換えている箇所を他の形式段落から抜き出しなさい。

問七 —— 線部④「環境の思想は、この平等の理念の批判を必要とする」とありますが、その理由を説明した
ものとして、もっとも適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自然の不平等を受けとめようとする環境への考え方と、動物や植物にも平等に生きる権利があるとする
近代の理念とは両立しないから。

イ 不平等を人々に強いる自然環境への考え方は、経済発展により人々が平等になることが可能だという
近代的な経済の理念に反するから。

ウ 自然の不平等を喜んで受け入れようとする環境への考え方と、経済の発展によって平等を目指す近代
的な経済の理念とは矛盾するから。

エ 不平等を人々に押しつける環境への考え方は、人々が利益を平等に受け取らなければならないという
経済の理念の中では生かせないから。

問八 空欄Ⅰに入る内容を以下の条件を満たした上で、自身で考えて記しなさい。

条件1 「なぜなら水害は、くから。」の解答欄の形式にあわせること。

条件2 「平等」・「不平等」の語句を二つとも必ず用いること。

条件3 内容は一文にまとめること。

問九 空欄Ⅱにあてはまる内容として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人間の多様性を自然の中で活かす社会づくり

イ 人間が自然への多様な権利を持つ社会づくり

ウ 自然と人間の関係の多様性を認める社会づくり

エ 多様な自然を人間が変えていく社会づくり

二、次の各問いに答えなさい。(三〇点)

問一 次の①～③の語句の意味として正しいものをア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 立て板に水

ア 時間が早々と過ぎていくさま。

イ 弁舌がすらすらとよどみないさま。

ウ 物がつるつるとすべり落ちていくさま。

エ 障害となる物が次々と取り払われるさま。

② 豆腐にかすがい

ア 跡形もなくつぶれること。

イ 味付けも調理も一切しないこと。

ウ 全くつなぎ止める方法がないこと。

エ 何の手ごたえも効き目もないこと。

③ 二階から目薬

ア 思うようにならず、もどかしいこと。

イ 成功する可能性が限りなく低いこと。

ウ 離れすぎていて、全く効果がないこと。

エ 無理だと思われることに、あえて挑戦すること。

30. 進美. 国

問二 ——— 線部の中から、他の三つとは文法上異なるものをそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

①
 ア あまりの恐ろしさに声さえ出せない。
 イ 息子は都会に出てから電話さえ寄こさない。
 ウ これくらいの年齢の時は、ひらがなでさえ書けなかった。
 エ 旅行中にスマホだけでなく、財布さえもなくしてしまった。

②
 ア その本はぼくのだ。
 イ 桜の咲く季節になった。
 ウ 走るのが好きだ。
 エ あの山に登るのは難しい。

③
 ア 学生の立場で考える。
 イ お茶でも飲もう。
 ウ 駅までバスで行く。
 エ 代理という形で会議に出席する。

問三 次の①～⑤について、二字熟語の□に共通してあてはまる漢字一字をそれぞれ記しなさい。

⑤	④	③	②	①
真	□	□	混	飛
□	類	訪	□	□
□	□	経	□	活
性	米	□	舞	□
□	□	□	□	□
首	存	代	立	進
□	□	□	□	□

30. 進美. 国

問四 次の□に漢字一字を入れ、対義語・類義語を作りなさい。

対義語

① 経度 | □度

② 膨張 | 収□

類義語

③ 借金 | 負□

④ 冷静 | □着

(問題は以上で終了です。)

受験番号	
氏名	
採点	

問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三		問二		問一	
	〔なぜなら水害は、〕					B	A	v	i	e	a
								vi	ii	f	b
									iii	g	c
									iv	h	d
	〔から。〕										

問四	問三		問二	問一
①	⑤	①	①	①
②		②	②	②
③		③	③	③
④		④		

受験番号
氏名
採点

問九	問八	問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一			
ウ	〔なぜなら水害は、〕 全員に平等に起こるのではなく、特定地域の人々に不平等を押しつけるかたちで発生するのである 〔から。〕	イ	経済を発展させれば平等になりうるという理念	平等に人々が暮らすためにすべての水害をなくそうとすると、河川の大改造をすすめる必要があり、それはたまに起こる水害の被害よりも、もっと大きな自然破壊による被害を招いてしまうこと。	環境と調和する社会の創造	B ア	A ア	v 才	i エ	e かんじゆ	a 共生
								vi ウ	ii イ	f 基礎	b きょうじゆ
									iii キ	g 促進	c 砂漠
									iv 力	h 治水	d はんも

問四	問三	問二	問一
①	⑤	①	①
緯	相	躍	エ
②		②	②
縮		乱	イ
③		③	③
債		歴	ア
④		④	
沈		生	

大問一 問一・問二は各2点 問三は各3点 問四・問六・問七・問九は各5点

問五・問八は各8点

大問二 全て各2点